

合掌

## 組手主体 “行としての組演武”

12月2日、横浜国際プールで、全国大会が開催されました。北浦和道院からは、一般男女の部で、澤田拳士と坂本拳士、埼玉大学からは、一般初段の部で、山岸拳士と陰山拳士が出場しました。県の代表として全国大会に出場することは素晴らしいことですね。山岸拳士と陰山拳士は、敢闘賞に入りました。これまた素晴らしいことです。日頃の修練の成果を発揮できましたね。

少林寺拳法の特長の1つに「組手主体」があります。前号では、日頃の修練における組手主体について考えてみました。今回は、「組演武」における組手主体です。組演武は、当然相手と二人組で行います。道院では、人数や資格等の関係で同じ人と組むことが多いですが、大学などでは、いろいろな人と組んでやりますね。体格や技量、動き、性格の似ている者同士でやる場合もありますが、逆に、全く違う人とやることもあります。親子演武なんかそうですね。親子演武はなかなか難しいですよ。互いに遠慮がない分、わがままや甘えなんかが出て、これまた、思うようにはいきません。

そんな組演武において、大切なことは何か。それが、“半ばは自己の幸せを、半ばは他人の幸せを”です。先輩や、技量の高い方が、1人勝手に行っては、後輩や技量の下の方はついていけないし、そのことで、つまらなくなったり、上手くやれないことに悩んだりするかもしれません。大切なことは、相手のことを思いやるということです。相手を理解し、互いに気持ちの良い演武をすることです。先輩ならば、「上手になれ。」という気持ちでやるし、後輩ならば「早く上手になって、演武を上手くやりたい。」と、互いに向上することを目指す。たとえ失敗したり、上手くいかなかったりしても、決して相手を責めたりしません。そうして、共に上達していくのです。これが、“行としての組演武”だと思います。

かつて、伝説の大先生が、全国大会で模範演武をされ、その時、片方の先生が上段突きをかわし切れず、こめかみ辺りに当たったそうなのです。演武終了後、その先生のこめかみ辺りから血が流れていました。その先生は、相手の先生に「突きを受けきれずに申し訳なかった。」と言ったそうです。「当たってごめん。」ではなく、かわせなかったことに「申し訳ない。」なのです。武としての組演武である以上、攻者は本気で攻撃します。だから、守者の受けやかわし、そしてそれに伴う反撃も正確になるし、上達します。だからと言って、常に攻撃が全力で良いかというところではありません。相手のレベルや状態をしっかり理解し、思いやる気持ちを持ち、相手に合わせてやらなければ、上手くなるものも上手くなりません。そして、互いに上達し、本気でやれるようになれば、そこに信頼関係が生まれます。先の先生方の演武の「受けきれずに申し訳ない。」というのは、そういうことなのです。

結手

## 連絡事項

### 1 14日(金)の練習場所の変更について

選挙により体育館が使用できませんので、下落合公民館(午後7時~9時)で行います。よろしくお願いいたします。

### 2 年末年始の練習について

12月21日(金)が練習納め、1月7日(火)から練習はじめです。

### 3 新春法会(鏡開き)について

1月26日(土)に第一ブロックの新春法会(鏡開き)を行います。詳細は後日お知らせします。参加よろしくお願いいたします。

### 4 納会のお知らせ

(1)日時場所 12月22日(土) 午後5時30分より 北浦和駅東口 徒歩1分 「笑笑」

(2)会費 大人(大学生以上)4000円 高校生2000円 中学生以下 無料

※中学生以下の拳士は保護者同伴でお願いします。保護者の方がどうしても都合つかない場合は、相談ください。

※道院の拳士だけでなく、ご家族、保護者の方も振ってご参加ください。親睦を深められればと思います

.....切.....り.....取.....り.....  
拳士氏名 \_\_\_\_\_ 納会に参加( します・しません )  を付けて下さい

参加人数 大人(     人) 高校生(     人) 小学生以下(     人)

※会費は当日集めます。